



予防接種について



1. 感染症と予防接種

子どもがかかりやすい病気の中で最も多いのが感染症です。感染症の中には、かぜ程度のものから、重症となり命に関わるような怖いものまでいろいろあります。かかると怖い感染症から子どもを守るために、安全で最も有効な手段は、予防接種です。

予防接種を受けると、将来にわたってその病気にかからないようにすることができます。また、もし感染した場合でも、重症になることを防ぐことができます。



2. 生ワクチンと不活化ワクチン

種類	生ワクチン	不活化ワクチン	トキソイド
特徴	生きた病原体を弱めたもの。体に軽く感染させ免疫をつくる。	病原体を殺し、免疫をつくるのに必要な成分だけを取り出したもの。	不活化ワクチンの一種。細菌から毒素を取り出して毒性をなくしたもの。
主なもの	BCG（結核）・麻しん・風しん・水ぼうそう・おたふくかぜ・ロタウイルス など	百日せき・ポリオ・インフルエンザ菌 b 型（ヒブ）・小児用肺炎球菌・子宮頸がん・B 型肝炎・インフルエンザ など	ジフテリア・破傷風 など
間隔	別の予防接種まで 4週間 あける	別の予防接種まで 1週間 あける	

3. 定期接種と任意接種



予防接種には、国がぜひ必要と考える定期接種と、希望者のみが受ける任意接種があります。定期接種は定められた期間内であれば費用はかかりません。

任意接種とされているワクチンも、実はすべての子どもに受けてほしいワクチンです。

4. 接種後の副反応について



ワクチンは体からみれば異物です。そのため体は何らかの反応をします。

ワクチンの改良が進み、副反応もかなり抑えられるようになりました。

よく見られるのは、接種部位が赤くなったり腫れたりすることです。また生ワクチンの場合は、軽くその病気にかかることで免疫をつけるので、接種した病気と同じ症状が出てしまうことがあります。

副反応を心配する気持ちはわかりますが、後遺症や死亡などのリスクは、予防接種を受けずに自然感染した時のほうがはるかに高いことを知っておきましょう。

5. 同時接種



同時接種は海外では一般的に行われています。医学的にも問題はないですし、接種するワクチンの数と回数が多いため接種の機会を逃してしまうことのほうがむしろ問題だといえます。

同時接種については、かかりつけ医と相談して決めましょう。



6. おわりに

予防接種は、ワクチンごとに接種する年齢や回数・間隔が違います。受け忘れてあわてることがないように、下の図を参考におおよそのスケジュールを把握しましょう。

予防接種は体調のよいときに受けるのが原則です。機嫌や食欲、便の状態など、2～3日前から気をつけておきましょう。また母子健康手帳は必ずもって行きましょう。

お問い合わせ
保健総務課 0823-25-3525

★ 定期予防接種

: 接種可能な年齢(法定接種対象年齢)

: 望ましい接種年齢
()内は標準的な接種期間

	出生後	3か月	6か月	9か月	1歳	1歳半	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	
BCG(結核)			①	1歳になる誕生日の前日まで (生後5か月～8か月)																
4種混合(DPT-IPV) ジフテリア(D) 百日咳(P) 破傷風(T) 不活化ポリオ(IPV)			1期初回 ①②③			1期追加 ④											2期 ①			
3種混合(DPT)			20日～56日までの 間隔で3回			3回目終了後6か月以上後 (12～18か月後)1回											2種混合(DT)で1回 (11歳)			
不活化ポリオ(IPV)			①②③		④	3回目終了後6か月以上後 (12～18か月後)1回								(注)過去に受けた回数で、 接種回数が異なります。						
麻しん風しん混合(MR)					1期 ①						2期 ②		5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間の児 [保育所・幼稚園では年長児]							
麻しん(M) 風しん(R)	(注)原則としてMRワクチンを接種。 同じ期内で麻しんワクチン、風しんワクチンのいずれか一方を受けた者、および麻しん、風しんのいずれか一方にかかったことのある者、あるいは特に単独ワクチンの接種を希望する者は単独ワクチンを接種することもできます。																			
日本脳炎						1期初回 + 1期追加 ①②③								2期 ④						
インフルエンザ菌b型(ヒブ)※		①②③		④	(27日～56日間隔で3回)→(3回目終了後7か月～13か月までの間隔あけて1回)															
小児用肺炎球菌※		①②③		④	(27日以上の間隔で3回)→(12～15か月に至るまでの間に3回目終了後、60日以上の間隔を置いて1回追加)															
ヒトパピローマウイルス(子宮頸がん)																			①②③ (中1)	

★ 任意予防接種

: 任意接種が可能な期間

水痘(水ぼうそう)																				(12か月以降1～2回) ★保育所など集団生活に入る子は早めに受けましょう。
おたふくかぜ																				(12か月以降1～2回) ★保育所など集団生活に入る子は早めに受けましょう。
B型肝炎																				(4週間隔で2回、20～24週を経過した後に1回) ※母親がB型肝炎キャリア(保因者)の場合健康保険適用あり(生後2, 3, 5か月で計3回)。
インフルエンザ																				(生後6か月以降2～4週間隔で2回/毎年) (年1回)
ロタウイルス																				(生後6週以降、4週以上の間隔で、計2回と計3回の2種類のワクチンがある。)

平成25年4月15日現在

※ヒブと小児用肺炎球菌は、標準的な接種方法以外の年齢(月齢)で接種を開始する場合、接種間隔・回数が異なります。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>